

家族のいる意味 家族のあり方について

奈良市立富雄第三中学校 2年 中村 大和

自分には両親と三人の弟がいる。そこで、自分が思う家族の意味とは親と子供両方が生きていく上で大切なことや、「良い親」「良い大人」になるための勉強をすることだと思う。例えば、自分の親は父、母共に自分含め四人を育てるために毎日働いてくれている。父は介護をしており、高齢者の身の回りのお世話や、デイサービス、地域での活動、最近では、奈良西養護学校の利用者さんも増えている。また、いきなりヘルプが入ったら、真夜中でも布団から飛び起きて仕事に行くこともたまにある。母は、十トントラックの運搬業者をしており、毎朝四時には家を出て、県外の工場を毎日大きなトラックで走っている。遠いときなら、関東まで行ったり、九州方面へ行くこともある。なので、泊まりこみも、多々ある。加えて、土日出勤する日もある。何も言いたいかという、自分たち子供は少なくとも、こんな自分たちに尽くしてくれる父、母のようになりたいと思って、どうやったらなれるのか勉強するし、母に聞くのは少し恥ずかしかったので、父に、「やっぱり、子供のために何ができるのか考えたりするん？」と聞いた。父に、「そりゃ、父ちゃんらが手本見せなあかんから、考えるやろ」と言われた。親も、どうやったら良い手本を自分たちに見せられるのかを考えるらしい。その他にも家族がいる意味には、学校、幼稚園、職場の嬉しかったことや、グチを言ったり、けんかをしたり、一番心を開いていられるということだと思う。最近では自分のテストで、この教科はよかった、これは悪かった、今日の会社の利用者さんからおまんじゅうもらってきた、幼稚園の友だちと、なぐり合いのけんかをした、などの会話をする。当然外では話せないような人のグチを言うことだってあるし、ふつうの会話をするようなことだってある。当たり前なことだが、けんかをすることだってある。弟と野球のことで、けんかになったり、ちょっとしたことで親とけんかしたりすることがある。自分も気を付けたいと思っているが、思春期なので、少し大目に見てほしいときもある。こんなふうに、家族がいる意味とは、親が子供に手本を見せられるような「良い親」になるための勉強をしたり、子供は、それを見て「良い大人」になるための勉強をすることの他に、自分がけんかをしたり外では言いにくいことや、世間話をしたりなど、自分の最も心を開いていられるということだと思う。

次は、家族のあり方についてだ、自分の思う家族のあり方は子供が大きくなるに連れて、自分のできることを探し、少しずつ自立できるようにすることだ。もちろん、親が年をとると、親の世話をすることも出てくるとおもうので、自分は、介護の仕事をしたいと思っている。もちろん、子供が立派な自立した大人になるまで、いろいろなところでお金がかかるし、大変なこともある。それを四人分父と母はしてくれているので、親に大きくなってそれをするのは、普通のことなんじゃないかと思うし、一つの恩返しということにもなると思う。もちろん、親になったら、子供にこれまで自分の親に教えてもらったことをまた、教えなければいけない。このように、家族のいる意味とは親が子供に良い手本を見せられるかを勉強し、子供はそれを見て自分はどんな大人になりたいかを勉強することだ。家族のあり方とは、子供が親に教えてもらったことを、生かして、親になったらそれをまた自分の子供に教えることだと思う。